

79
4109
2



昭和42年11月12日寄
和田大作氏贈

花生振のり

一人は花とるも時を待たぬ花は切を拭かす花生は
板すよりのりこころの加ひるこも香りのせし如く
一枚先時を待たぬ花とる

正月梅 元日草 少くも草 ちつと草とる

大少くも草花は鏡月 槎花

二月黄梅 春雲様

三月桃 小梅 我草菊 赤菊花 ちやが 藤

既下花 こんりく

日月草の花 牡丹 芍薬 停芸 杜若 あやめ 石竹
美人草 庭梅 菱花とるしと かんび 一八 山吹

茶二

花菖蒲 あさ菊 ぶん菊

又月あやめ ひめゆりの介ふき 百合らりく 川原をたこ
あさいあさく 姫らんらん 白葉はるあま

六月菖菊あま 風車 烏帽子 江戸仙 梅をら

鳴子系 香蘭 湯かきくし 菖水仙 熊谷 蓮

日帽子 あまりり あまき

七月仙菊花 秋歌 小東花 夜袴 くらり

八月 むんらん ぶんらん ぶらんらん ぶらんらん

付と ひろゆか

五月秋菊あま 沢指校 梅のくし 紫式

十月茶心花 名仙 松 子松梅をら

土月茶心花 梅 水仙 室屋

十二月室屋 梅松 名仙

たのむるの花をばらし花くりに花松ふ成るよと
と葉のらむりのよりのとすべし葉のらむり

あま梅桃の松又実と花の代はらる梅のこの
花のあまの松実のそと葉あまのこの松

梅花の事

一花一葉に花は実をたて葉は実をたす皆人く年
のあつらひ

一むらげ 梅 葉のま花 萩 萩

三むらげ けりらん けりらん 百合のま

ほう仙花 女帝花 桔梗 かつら ちんね
鬼あきま ぶらつき 蘇の敷

花を切留れませ

一葉花の目申よその花葉をてあよびて切つて
はしり湯氣とあきまの切つる花
一本花の切つる葉方切つる葉を花葉をてあよび
ひきり花何をも根焼くて一日傳

花客へあらまれば法

一花葉入あよ花生くあ七八分程入麻は麻葉入あ
中よしら葉入あ花葉をてあよび花葉をてあよび
持あよらまらつて又の麻は麻葉をてあよび花葉を

花葉をてあよ花生くあ七八分程入麻は麻葉入あ
中よしら葉入あ花葉をてあよび花葉をてあよび
持あよらまらつて又の麻は麻葉をてあよび花葉を
花葉をてあよ花生くあ七八分程入麻は麻葉入あ
中よしら葉入あ花葉をてあよび花葉をてあよび
持あよらまらつて又の麻は麻葉をてあよび花葉を

一葉花の目申よその花葉をてあよびて切つて
はしり湯氣とあきまの切つる花
一本花の切つる葉方切つる葉を花葉をてあよび
ひきり花何をも根焼くて一日傳

一 子母のつらき花をいふはたゞ一かたのつらき花をいふはたゞ
 て海りよまた花を切らばて後に入つては
 魚は昔も花抄を伴ひていふのまはしては
 一 花をいふは花をいふは花をいふは花をいふは花をいふは
 一 花をいふは花をいふは花をいふは花をいふは花をいふは

出陣の花

一 花は切行とて花は切行とて花は切行とて花は切行とて
 一 花は切行とて花は切行とて花は切行とて花は切行とて
 一 花は切行とて花は切行とて花は切行とて花は切行とて

一 子母の花は花は花は花は花は花は花は花は花は花は花は

一 花は切行とて花は切行とて花は切行とて花は切行とて
 一 花は切行とて花は切行とて花は切行とて花は切行とて
 一 花は切行とて花は切行とて花は切行とて花は切行とて
 一 花は切行とて花は切行とて花は切行とて花は切行とて
 一 花は切行とて花は切行とて花は切行とて花は切行とて
 一 花は切行とて花は切行とて花は切行とて花は切行とて
 一 花は切行とて花は切行とて花は切行とて花は切行とて
 一 花は切行とて花は切行とて花は切行とて花は切行とて

船の入りまじりし 萩橋 水伝 何もんあ
ぬむぬ

一船よりちんじゅうは入ぬまじりまじり
て物敷き一風流のりぬまじりまじり
ためてもその人のぬまじりてぬまじりぬまじり
ぬまじり

釣舟れたのり

一船よりちんじゅうは入ぬまじりまじり
ぬまじりぬまじりぬまじりぬまじり
勝舟のり二船のりぬまじりぬまじり

一船のりぬまじりぬまじりぬまじりぬまじり

舟舟舟舟舟

一舟のりぬまじりぬまじりぬまじりぬまじり
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一舟のりぬまじりぬまじりぬまじりぬまじり
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一舟のりぬまじりぬまじりぬまじりぬまじり
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一舟のりぬまじりぬまじりぬまじりぬまじり
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

釣舟花形

いざな花舟の形にて舟より
あつとあらわすつらつら
け花形ハ 三柿系



うめ

とあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつと

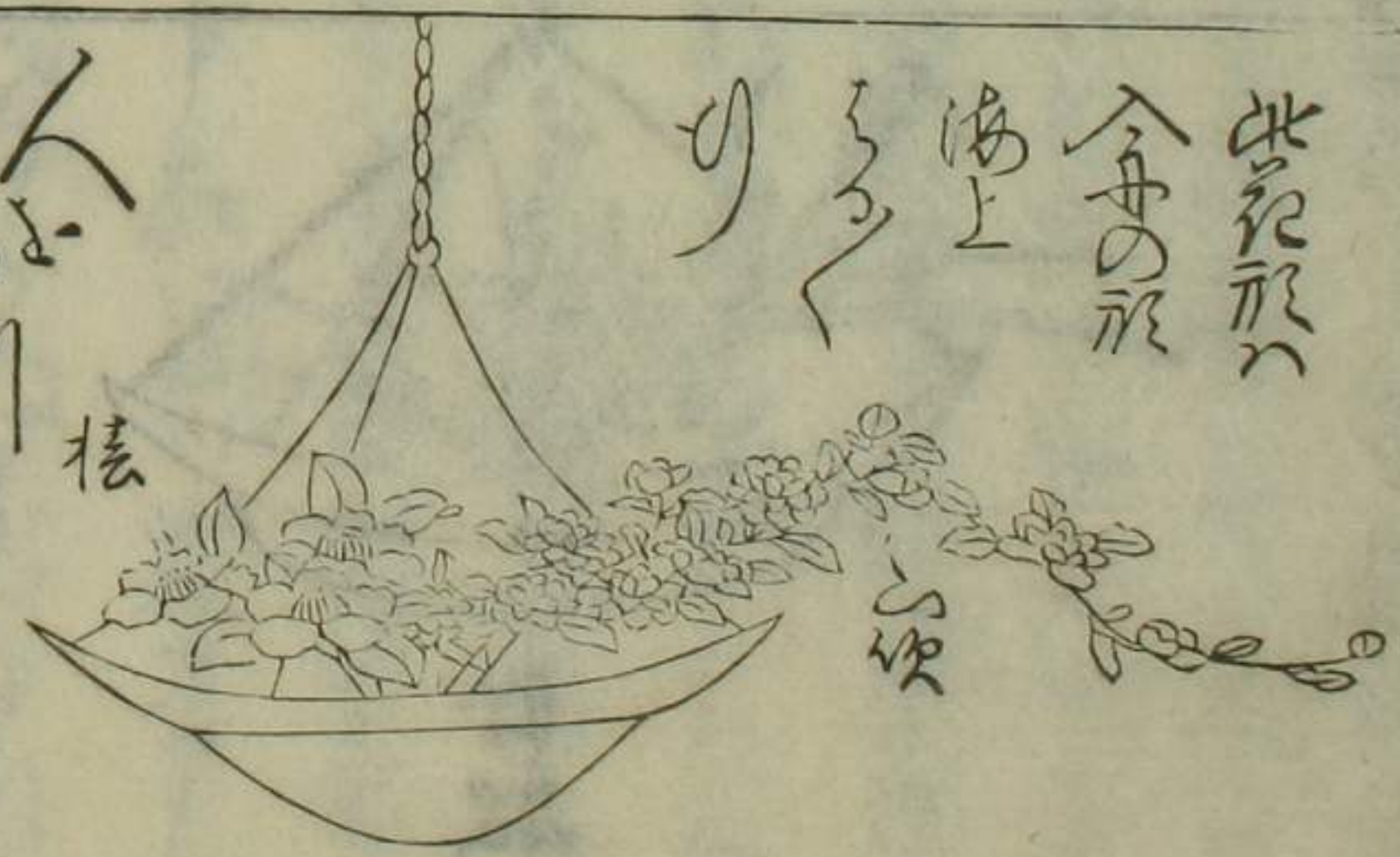
此花形の

舟の形

海上

り

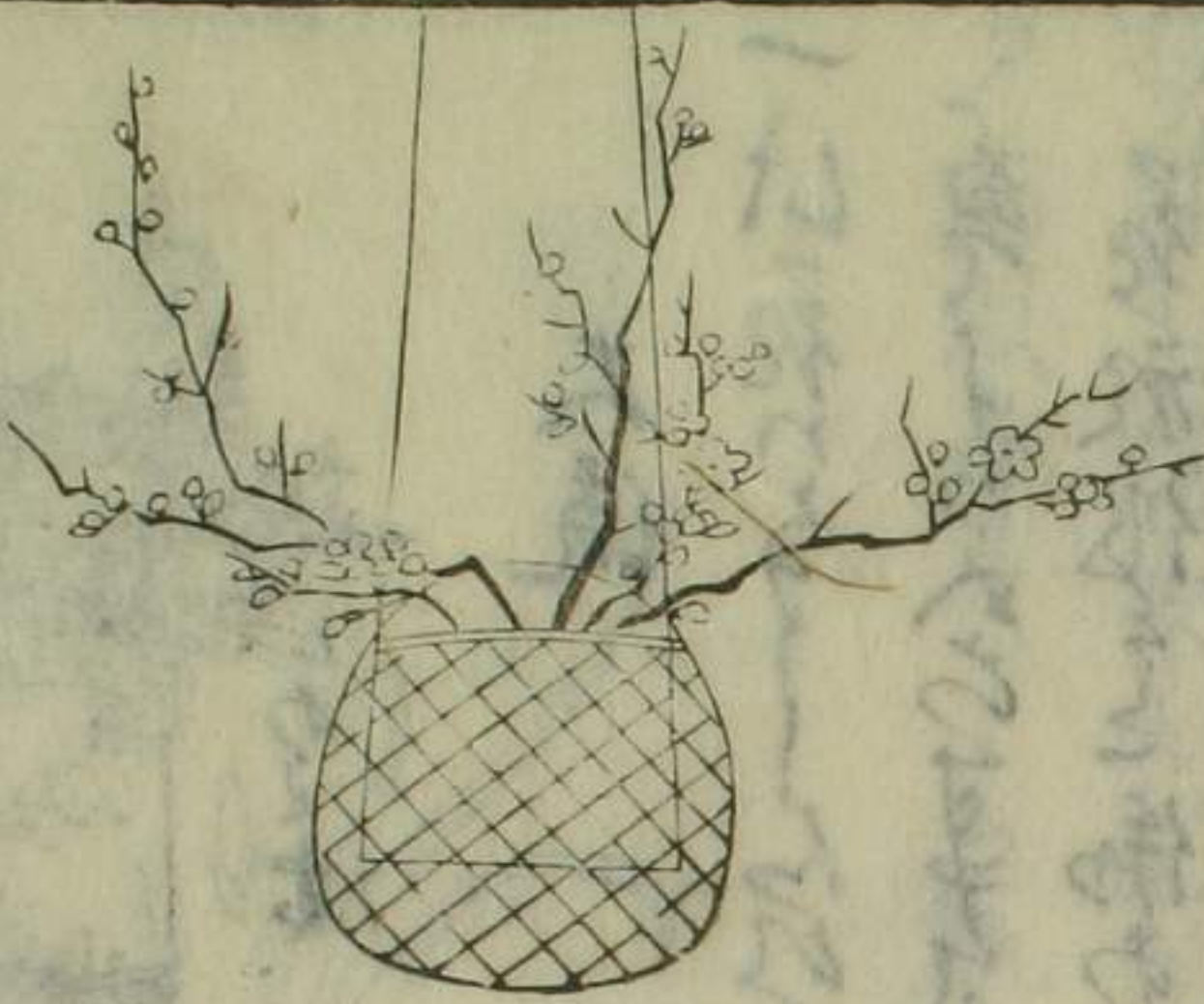
り



うめ

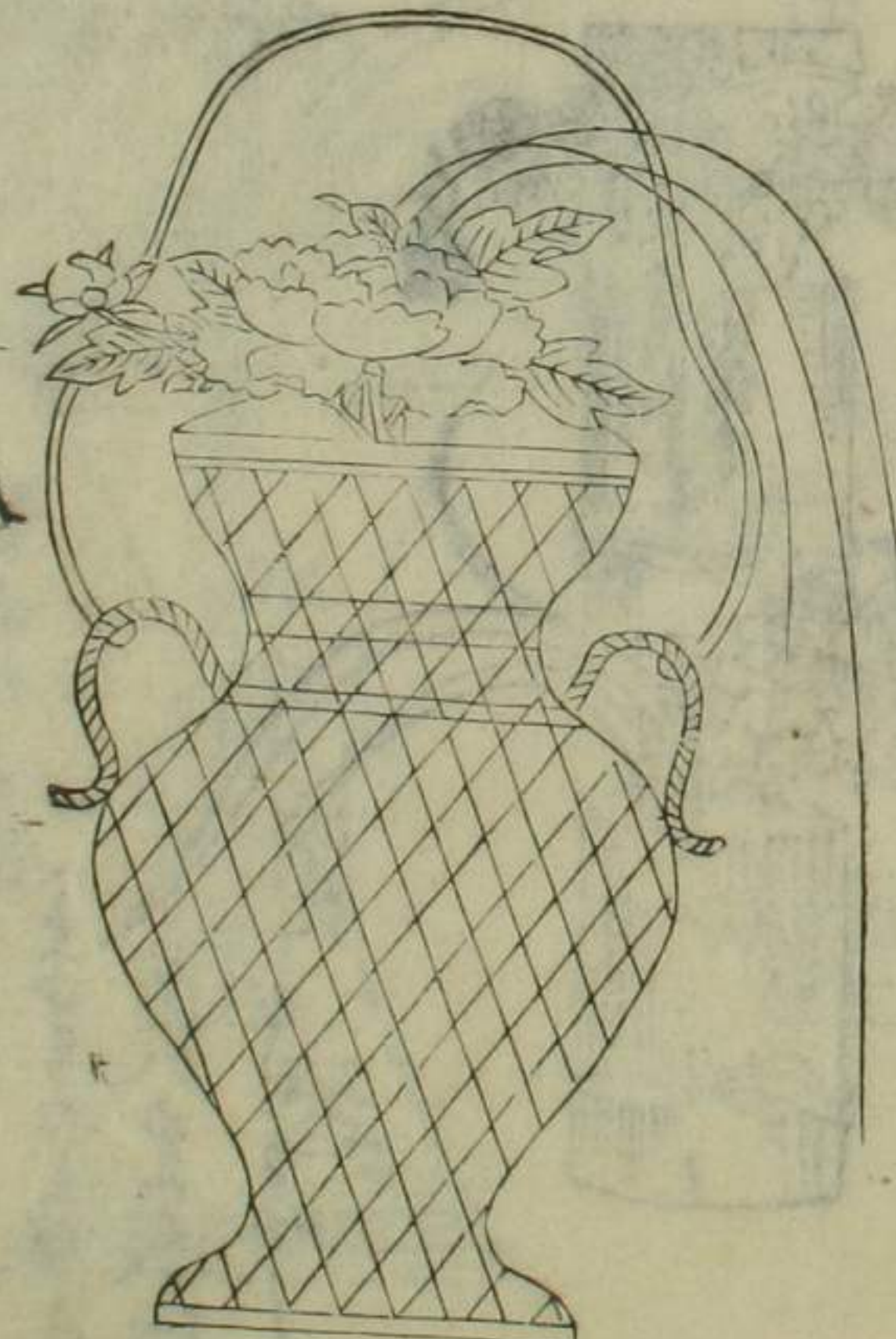
人
あつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつと

高撰



いざな花舟の形にて舟より
あつとあつとあつとあつと

籠花生内うけ舟



一室竹花形



風車

二室竹流花形

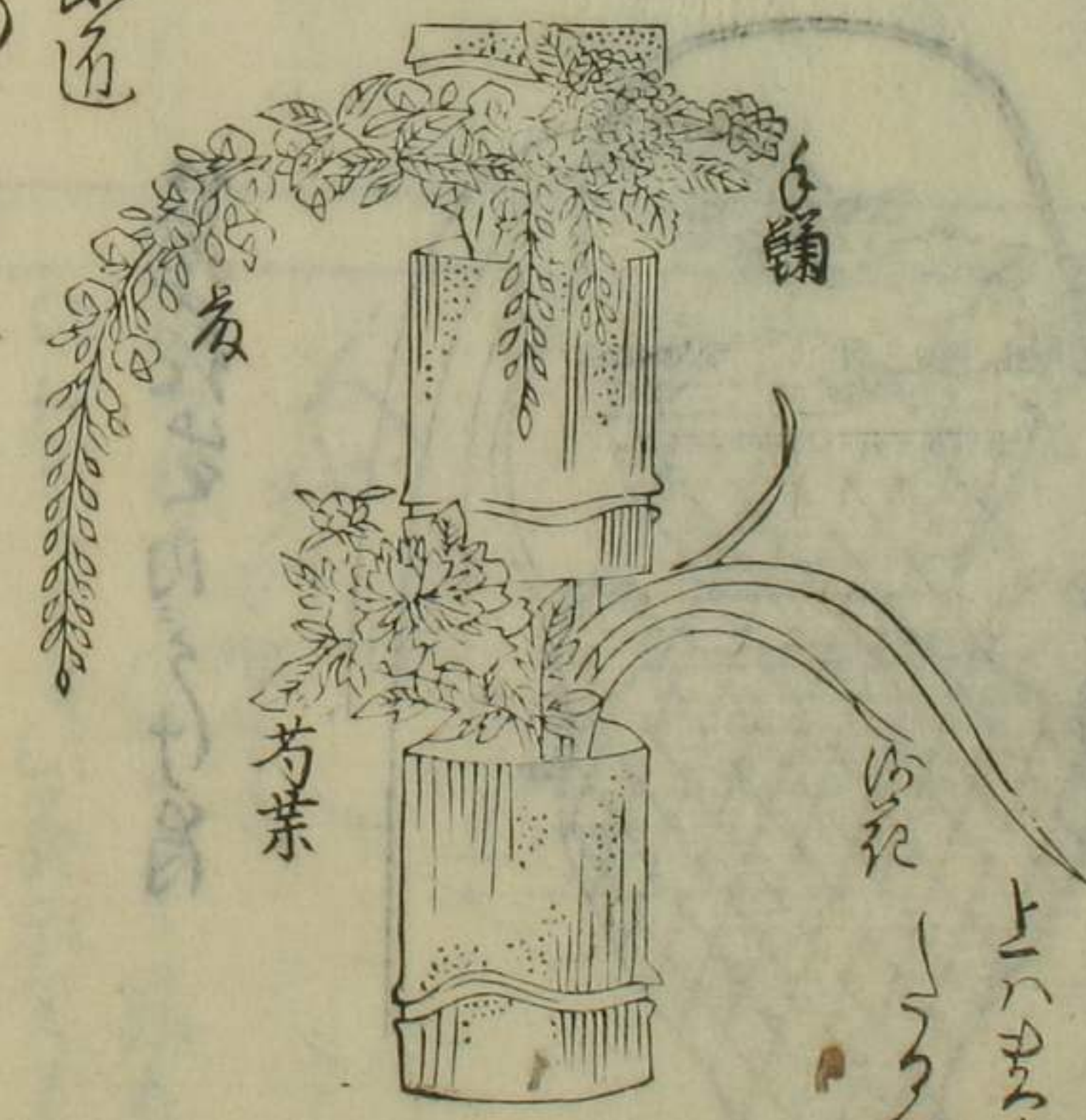
大流

一ヶ花のさくさく

花の流るるを備わら

たふさく

右に竹花生ん千冊字直宗通
竹舟の作もなるよ年八のころり



白蘭

菖蒲

芍薬

一ヶ花のさくさく

さくさく

さくさく

ひげ花

尺八のひげ切り

一ヶ花のさくさくより舟の花を月ら
ね附りさめの花とせひしきさめ(お)
抄紙毛に仕立てし舟にけん八のさめ
るごお救きくさくさく月

杜若



糸

あざむき
あざむき



唐物形名物

水陸



水仙花の他を
水仙



中
か
が
の
花
地

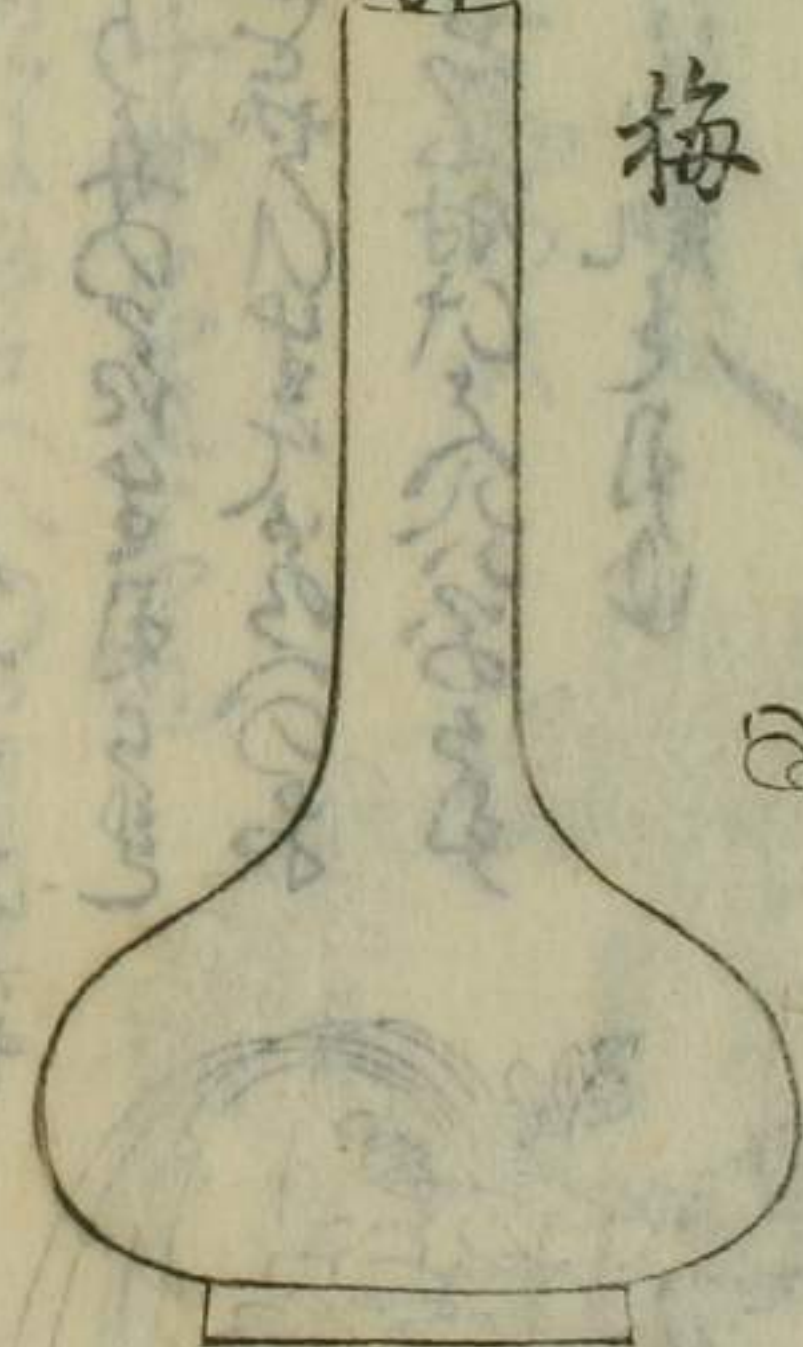
水仙

い
は
な
の
花
の
地

藿
首



梅

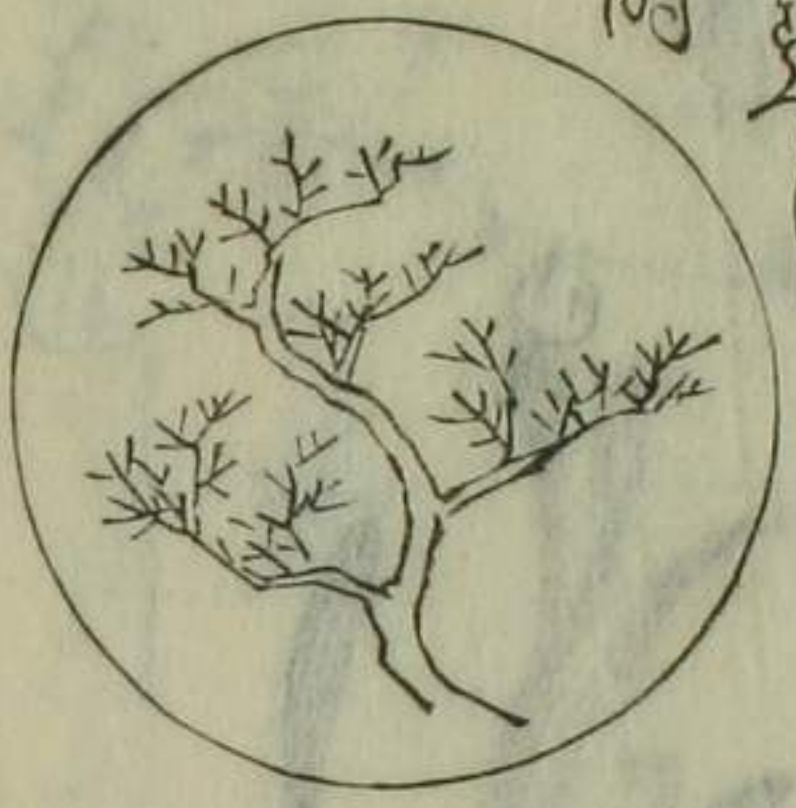


松

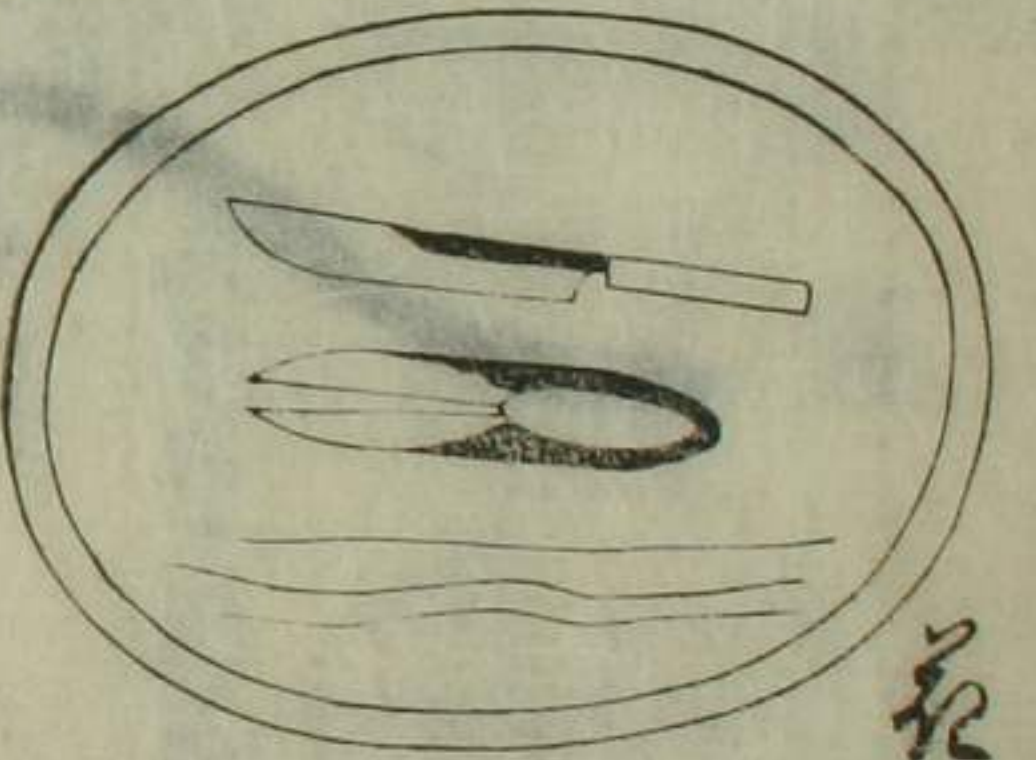
花
の
地
の
花
の
地

人のあはれいけいなり
人のあはれいけいなり
も合もあか人
あはれいけいなり

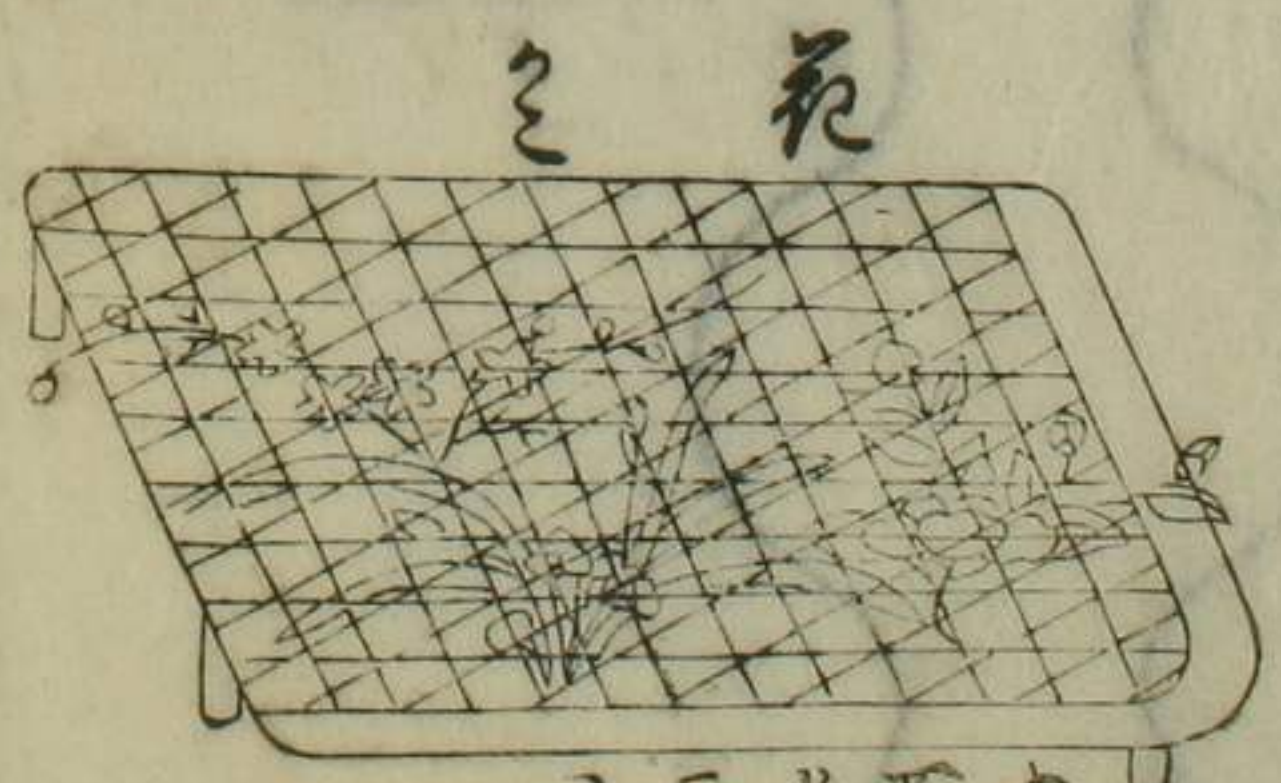
人のあはれいけいなり
あはれいけいなり



唐刀柄をよき
わり又柄をよき
くわいかに内をよき



花切をよき



守
三寸
五分
一寸

懸物懸巻之式法 油之物之事

一懸物之内三幅一対之に牙懸板の先伸るるを
ていまいに垂て懸巻をよき
けり持あがり懸板へ入釘かけ油をよき
くとん板あのかことあのかかけ油をよき
巻結の三幅をよき
一と一板の先伸るるのかことあのかかけ油をよき
方へ片あがり懸巻をよき
あはれいけいなり
あはれいけいなり
あはれいけいなり
あはれいけいなり

置へしき人沙威の所をいへぬ也

同常式莊の法

一 大座をうけていし座を名を立花二籠之花巻并花籠同

二 幅一對砂地花

一 大座花の内方の花祝儀に依て去燈籠の傍におこ
とく砂地の照也然地并座の椅子いより足合あり

二 偏一對並石花

一 高座のふもとをさかしてはまよありし折さるる京
よもつ砂の入り組折らるるの入り目さかきまよらるるのあねの
す水入々内もつり又内もあり折の景もつるおとのお
ありらるるの傳受りし句

文甚座の次第

一 文巻玉不ぬき月廿二めよりなす書札系入花籠紙
小座花籠并るるをわめてはまよは祝儀又紙花を
しよま物玉不ぬきしも

物音座のし

一 座のうへに地を中座より折打を別内うらへ書紙のし
つゝ次の環とむのうらへ白ひは後おまづ

物花坐のし

一 大舟の巻玉も獲一籠の方を方へりし二籠のし
後ひまへし花の物音もも出あはまより方へりし
はげしき舟よりけ帆のし

あつらひ何れのお茶も花よりて標記しん也
懸花生の事

一 大花懸花の茶も一入るといふ事ありしやうしぬの標記あり
ししやうあり又高茶とつけぬ入からしむ高茶の香も
花生れりあり

蓮棚傍の事

一番が食茶の内よき菓子入りの茶上よの昆布ゆに
約標しよ下菓子入りの茶も香又ハ高標標ハ下に
曇かじ標をさふとん後小壺より何れ懸茶壺之
とよき茶よ茶香がまじりぬるなりのみを口又ハ口
よせりしやう又上下標ハ下標の茶下下一方向

懸茶汁の中流合能也

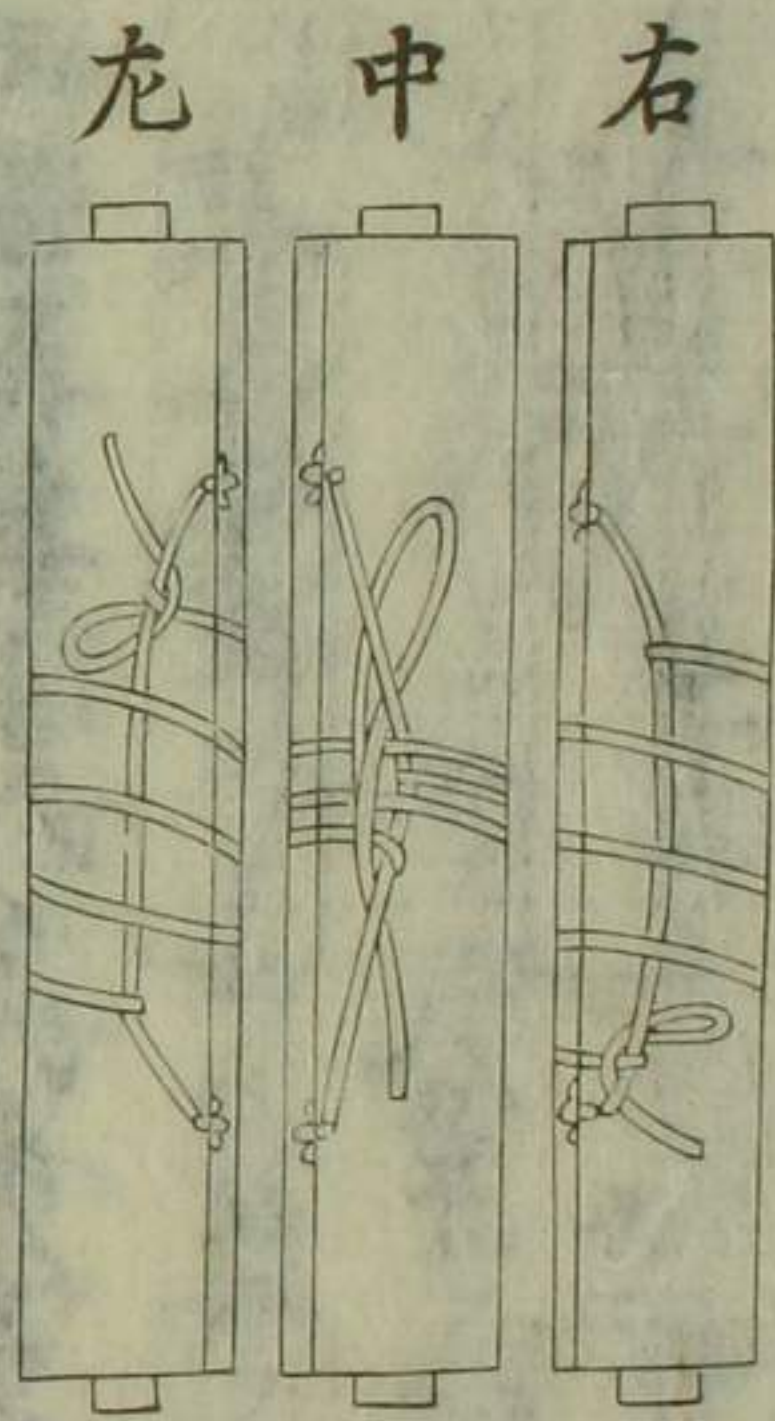
上段茶標卓香茶能

一 卓ハ中央を標見合卓下の花田方足のおん出さる
振よせりし標の時の茶も卓下より入るしやうん
合とて一又高茶もこの茶卓より

一 細かけ茶上段ハおろしも度後の標茶ふより茶壺
日と茶も勿論高標ゆも茶も茶標しやうしぬ細
茶とてこの茶も茶も下下計中おの一文茶も茶壺
茶細合又ハ引懸しよとて茶壺のしけとつあらん度
表のよの茶しやう

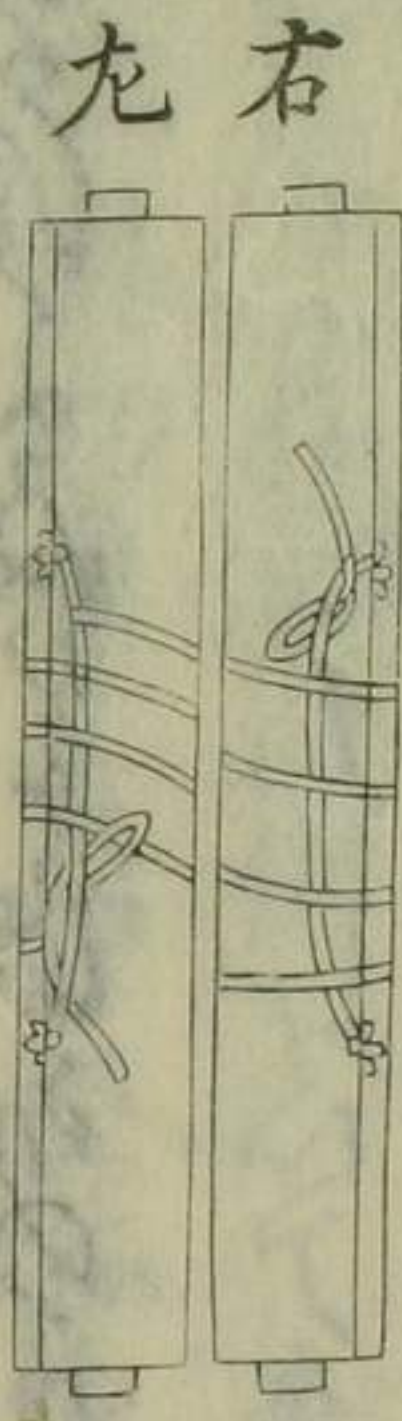
一 床の茶目も事同隔一對二籠卓も茶壺すしん

三幅對糸不入法牙系中結の糸



大横糸とけ中
糸の結と下

二幅對糸不入法牙系中結



竜梅
虎竹

臺子先屏風の事

- 一原風の太縁二寸小縁二分也
- 一短冊ハ幅一寸八分長サ一尺五分也

一短冊ハかり押やうの事丁半角丁半角丁半角
と押お也

一丁と云ハ短冊の額と云うはあつちの半と云ハ短冊の中程と云て次の短冊の取と押也角と云ハ短冊と短冊とのすゝと云うは押お也

一あつち短冊と押おさすとすう附半角の見えとと糸あつち糸味すう也

一色紙斗押板のり丁半角半角丁角丁半角押ありた丁半角と半ハ短冊の格う向

一厚風縁乃多糸味のり

一太縁太坊あつち小縁糸あつち太縁糸あつち物

一斤桐氏用之席の故也

汁 あじうちのね
ゆが口 ゆがくち

春用食類

水香 鯛 たけ 白真 鰻鱺 うなぎ 毛真 たいさ まで

あまび ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

こい ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

夏

鶏 鴈 白鳥 ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

秋

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

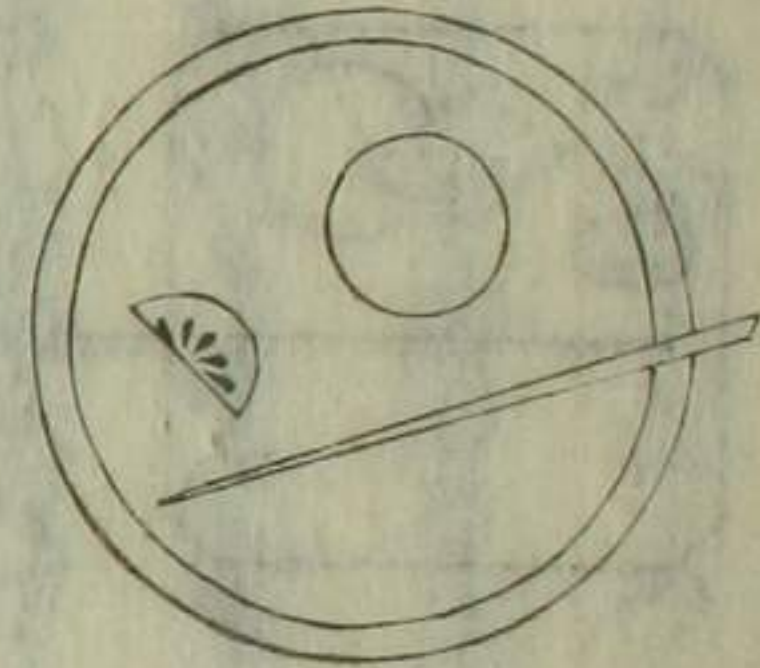
ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ ちまこ

利休小野と

湯茶菓子



粟餠

急茶 氷砂糖粉

ふろふん

以外茶菓子に未^さと^と無^くして湯冷^れの仕^{たて}茶^たれ^を
 てん^んね^んあ^いの^うた^のか^こら^いに^い用^を存^せし^と思^はし^る教^書
 たる^に細^川三^亦利^休偶^々之^を流^して^同道^を茶^を合^ひに^押掛^け
 ら^しめ^り内^の茶^{菓子}より^り大^きき^よ少^きき^をけ^りて^も
 う^らま^りあ^らわ^せか^らけ^りひ^きり^てい^らし^めり^やり^やり^やり^や
 乃^ち之^を向^きに^茶漉^くら^して^もて^ハ茶^をよ^りり^茶菓子^の
 物^教書^一極^めに^定め^りて^ハ先^づ茶^道茶^{菓子}一^通記

利休小野